

令和6年度津別町総合戦略事業（地方創生事業）の実績について

項 目	内 容
1. 北海道つべつまちづくり株式会社との官民連携事業	①事業概要 平成27年度からのまちなか再生に係る継続事業。平成31年3月に設立され、特産品開発・事業創出支援などを実施。令和元年度より町からの委託事業として、“ふるさと納税事務代行・拡大業務”や“移住・起業・空家利活用相談窓口等運營業務”、令和3年度途中より“地域おこし協力隊募集・フォロー業務”を受託。 ②進捗状況 （1）組織・全体 社員3名のうち、1名が9月より1年間産休を取得している。同月より、「移住促進・地域プロモーション」を任務に着任した協力隊員1名が、移住・定住サポートデスクの担当として業務を行っている。 経営改善アドバイザーとして4名を委嘱しており、助言や提言を受けている。 （2）特産品開発 特産品“クマヤキサブレ”については、町内外の各店舗で取扱い。 令和6年度のクマヤキサブレ売上高：2,682,333円 ※前年度売上高：4,849,661円、前年比：△44.69% （3）飲食店事業 地域おこし協力隊員の1名が調理員として活動。 令和6年度の売上高：3,518,087円、前年比：△25.01% （4）ふるさと納税事業 4月に“ふるさと納税事務代行・拡大業務”の委託契約を締結。年間寄附目標額を1億円とし、PRなど様々な工夫を凝らして事業を推進。活用サイトは、“ふるさとチョイス”“楽天ふるさと納税”“ANAのふるさと納税”“さとふる”“ふるなび”“Amazon”の6サイトを運用中。 Amazonについては、現在整備中であり、今後順次返礼品が掲載される。 【令和6年度実績】 新規返礼品を追加するなど、返礼品ラインナップは少しずつ豊富になってきたものの、画像の作成やポータル

サイトの整備が間に合わず、掲載しきれない返礼品もあり、寄附額、寄附件数とも前年を大幅に下回った。
また、物価高騰の影響もあり、他自治体との価格競争に勝つことができなかったり、効果的なPRができなかったことも、大幅な減少の要因の一つといえる。

令和6年度の寄附実績としては、57,612,100円(3,729件)となった。

※前年実績は89,109,000円(5,244件)

(前年比)寄附金額:64.6% 寄附件数:71.1%

(5) 移住定住サポートデスク

4月に“移住・起業・空き家利活用相談窓口等運営業務”の委託契約を締結。移住窓口業務や空き家バンクの運営などの業務を実施。

町外在住者が所有している町内物件の利活用を図るため、税務収納係より発送した固定資産税の納付書に空き家バンクの紹介チラシ(一部、住宅系の事業紹介)を同封。チラシ同封の対象者は町内に物件を有する町外在住の個人400件程度。また、8月・3月広報つべつにて空き家バンク紹介チラシを配布。

インターネット(SNSやホームページ)、メールマガジン、チラシ、ポスター等各種媒体を活用して首都圏などへ継続した周知・PRを実施。

【移住起業空き家等利活用相談窓口対応実件数】

4月: 25件(うち新規 8件)、空き家バンク物件成約 3件

5月: 22件(うち新規 16件)、空き家バンク物件成約 なし

6月: 13件(うち新規 10件)、空き家バンク物件成約 1件

7月: 14件(うち新規 11件)、空き家バンク物件成約 なし

8月: 3件(うち新規 3件)、空き家バンク物件成約 なし

9月: 5件(うち新規 5件)、空き家バンク物件成約 2件

10月: 15件(うち新規 12件)、空き家バンク物件成約 なし

11月: 10件(うち新規 9件)、空き家バンク物件成約 2件

12月: 11件(うち新規 12件)、空き家バンク物件成約 なし

1月: 4件(うち新規 2件)、空き家バンク物件成約 1件

2月: 10件(うち新規 10件)、空き家バンク物件成約 なし

3月: 5件(うち新規 5件)、空き家バンク物件成約 なし

年間計: 139件(うち新規 93件)、空き家バンク物件成約 9件

前年度: 184件(うち新規 158件)、空き家バンク物件成約 18件(うち土地5件)

	(6) 地域おこし協力隊募集・フォロー業務 4月に“地域おこし協力隊募集・フォロー業務”の委託契約を締結。町内の地域おこし協力隊員が生活や就労等における悩みなどを気軽に相談できる体制を整備するとともに、現役隊員やOB OG、行政職員、地域住民との交流機会を創り、人と町を知る中で、隊員の一人ひとりが町内の生活・就労環境に合わせたそれぞれのライフスタイルを構築し、津別町への定住促進を目的として実施。 常設の相談窓口として地域生活における隊員本人への相談対応や、定期的に職場を訪問し指揮監督者との面談、隔月で隊員同士やOB OG・行政職員・地域住民等を含めた交流の機会を設けての情報交換などを行う。 地域おこし協力隊の募集業務においては、募集サイトの新機能を活用する等効果的な募集活動を行う。 9月17日から、「移住促進・地域プロモーション」を任務に協力隊員が着任し活動中。本隊員に関しては、協力隊インターン制度を活用し、4月15日から29日の間のうち10日間活動した後、地域おこし協力隊員として着任した。また、12月5日から、「情報魅力発信」を任務に協力隊員が着任し活動中。本隊員に関しても、協力隊インターン制度を活用し、10月14日から27日の間のうち10日間活動した後、地域おこし協力隊員として着任した。 また、1名が協力隊インターン制度を活用し、令和7年3月16日から28日の間で10日間活動した。 令和7年3月末時点での津別町地域おこし協力隊員数は6名。 2月20日には、協力隊員の活動を広く周知するべく、活動報告会を実施し、77名の参加があった。
2. 求人求職マッチング促進事業	①事業概要 移住定住及び空き家についてはワンストップ対応を通じての実績を積み上げてきたところだが、“住”と併せて“職”を紹介することで、より効果的となると考える中でツールが無かったことや、過去に実施した町内事業者へのヒアリング等を通じて人材不足や求人課題を問題視する事業者も複数あったことから、課題解決に向けた施策を実施する。 ②進捗状況 《ワークINツベツ（北海道津別町仕事情報発信サイト）》 令和2年度事業としてサイト構築及び掲載企業への取材などを実施。令和3年6月21日にリリース。 現在、35件の企業・事業者が掲載されている。 令和6年度サイト閲覧数：8, 429回（1日平均23回閲覧されている）

3. 大学生との連携によるまちづくり事業（北海道大学課外活動団体HALCCとの連携事業）	①事業概要 平成28年に実施した地方創生まちづくりアイデアコンペで優秀賞を獲得したことをきっかけに北海道大学公政策大学院とのつながりが生まれ、課外活動団体HALCCが設立された。 同年度より活動を開始し、現在まで継続されており、コロナ禍であってもオンラインとオフラインを組み合わせ実施してきた。 令和6年度は、HALCCの活動として18名の学生が来町し、地方創生について現地調査と発表会を実施した。 令和6年度の財源として“デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ「横展開型」）”1,250,000円を申請。 実績額は、1,117,766円となった（対象事業費は2,235,533円）。 ②進捗状況 （1）高大連携事業 ・<u>町政要覧から考える理想の津別</u> ～理想の津別町を考え、現状そして未来の津別町にあったらいいもの、あってほしいものと考え、津別の未来を「自分ごと（自分のこと）」とすることで、“調べる力”“考える力”“伝える力”を身に着けることを目的とする～ （2）大学生独自事業 ・<u>HALCC+の創設</u> 令和6年度より、HALCCと地域学生及び地域住民が「実践的活動」を地域の活性化を目的として、「HALCC+」を創設。将来的に、地域学生・地域住民の主体的な交流や活動の受け皿になることを目標としている。 令和6年度は、地域情報誌プロジェクトを実施。主に津別町の日常を題材にした情報誌を作成するため取材活動を行った。 ・<u>北大祭でのクマヤキ販売</u> 令和4年度の「クマヤキ免許証プロジェクト」をきっかけに、HALCCメンバーの一人がクマヤキ修行を行い、北大祭でクマヤキの実演販売を実施。 6月7日～9日の3日間で、目標販売個数1,800個を完売。次年度以降も北大祭でのクマヤキ実演販売は継続していく予定。
---	--

【全体行程（実績）】

日 程	内 容	会場等	備 考
5 月 9 日～1 0 日	高大連携事業	津別高校	
6 月 2 0 日～2 1 日	高大連携事業	津別高校	
7 月 1 8 日～1 9 日	北大マルシェ準備	津別高校	
7 月 2 0 日	北大マルシェ出展	北海道大学	
9 月 2 6 日～2 7 日	高大連携事業	津別高校	
1 0 月 1 7 日～1 8 日	高大連携事業	津別高校	
1 1 月 2 8 日～2 9 日	高大連携事業	津別高校	
1 2 月 1 2 日～1 3 日	活動成果報告会準備	津別高校、公民館	
1 2 月 1 4 日	活動成果報告会	公民館	YouTube：道東テレビアカウントにて視聴可能
2 月 6 日～ 7 日	高大連携事業	津別高校	
3 月 1 8 日～2 0 日	新 2 年 生 高 大 連 携 事 業	津別高校	

4. 地域・文化交流+交通拠点整備で まちなかの賑わい 創出プロジェクト ※大通地区コミュニティ施設	①事業概要 津別町における地方創生を実現するために、地域資源を活用したコンパクトなまちづくりに取り組み、子育て世代や高齢者が安心して暮らせる環境整備と雇用の場を創出することによって、「まちなか地区」を再生し、現在の「まちなか地区」の人口を可能な限り維持していく。その中で、豊かな自然環境と地域資源を活かし、津別町で働き、暮らしたいと思える活力あるまちづくりや、自然豊かな生活環境を次世代へ継承するとともに、誰もが安心して暮らせる地域社会を目指すため、地方創生事業の一つである「まちなか再生事業」として本施設整備に取り組む。地元特産品等の購入者等との交流拡大を通じて一層の観光振興と関係人口の拡大を図り、移住定住につなげる取組を継続的に推進していく。 ②進捗状況 ・指定管理者 施設の指定管理者には、北海道つべつまちづくり株式会社を選定。 指定管理者は、施設の維持管理だけでなく、町民にとっての交流の場、憩いの場となるような、イベント等の開催について企画立案から実施までを行うことを指定管理条件としている。 【令和6年度開催イベント】 6月29日 北見室内管弦楽団（図書館開館1周年記念コンサート） 7月18日 スマートフォン使い方講座（役場総務課） ～20日 8月25日 おみこしワークショップ（こどもみこしをかつぐ会） 10月 5日 「ヒグマは見ている」（図書館） 11月24日 松下恵の絵本読み聞かせ&映画上映会（大通棟1周年記念事業） 11月30日 第2回図書館まつり（図書館） 12月 1日 〃 12月21日 ホラネロクリスマスコンサート（まちづくり会社） 1月11日 カレンダー展示販売会（図書館） 12日 〃 2月20日 地域おこし協力隊活動報告会（役場住民企画課） 3月 8日 津別8ミリフィルムプロジェクト結成会（津別8ミリフィルムプロジェクト実行委員会） 3月15日 吹奏楽練習（津別中学校） 3月23日 〃 ・年間入館者数及び年間開館日数 年間入館者数：161,356人（442人／日） 年間開館日数：365日
---	---

5. 移住支援＋
買い物＋ヘルスケア
拠点施設整備に
よるまちなか賑わ
いプロジェクト
※幸町地区コミュ
ニティ施設

①事業概要

津別町における地方創生を実現するために、地域資源を活用したコンパクトなまちづくりに取り組み、子育て世代や高齢者が安心してくらす環境整備と雇用の場を創出することによって、「まちなか地区」を再生し、現在の「まちなか地区」の人口を維持していかなければならない。そのために、地元産業の担い手確保、インバウンドを含めた観光の誘致、都市圏との相互な交流や移住・定住の促進、町内における結婚や子育てを促進するため、その拠点となる施設を整備し、定住人口の維持・増加やこれまで取り込めなかった観光客等を取り込むことで、交流人口・関係人口の創出・拡大を図り移住人口を増加させるとともに定住人口の維持・増加に繋げていく。

交付金名称	事業	交付対象事業費	交付決定額	実績額
地方創生 推進タイプ	【施設名称】 津別町地域交流拠点施設整備事業 (効果促進事業ソフト) 【整備内容】 移住・定住支援窓口及び施設管理事務所、イベント等に対応する多目的スペース、集客力の高い物販施設の建設に係る効果促進事業として、整備施設の価値を最大限に活かすための備品等を整備する。	5,456,000 円	2,728,000 円	2,585,660 円
地方創生 拠点整備タイプ	【事業名】 津別町地域交流拠点施設整備事業 【事業内容】 移住・定住支援窓口及び施設管理事務所、イベント等に対応する多目的スペース、集客力の高い物販施設の建築工事を実施。	388,520,000 円	194,260,000 円	194,249,000 円

②進捗状況

・供用開始

- 1 1 月 8 日に北海道つべつまちづくり株式会社が移転。
- 1 1 月 1 3 日にオープンセレモニーとともに幸町棟の供用が開始。
- 1 1 月 1 4 日にサッポロドラッグストアの開店。

・指定管理者

施設の指定管理者には、北海道つべつまちづくり株式会社を選定。

指定管理者は、施設の維持管理だけでなく、町民にとっての交流の場、憩いの場となるような、イベント等の開催について企画立案から実施までを行うことを指定管理条件としている。

【令和6年度開催イベント】

- 3 月 9 日 グラフィックレコーディングセミナー（河本農場）
- 3 月 2 3 日 音楽愛好会練習（音楽愛好会きずな）
- 3 月 2 9 日 2 0 2 5 手つなぎマルシェ（布こものかず）

・年間入館者数及び年間開館日数

年間入館者数：4 6, 7 9 4 人（3 1 1 人／日）

年間開館日数：1 5 0 日